



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

現行学習指導要領の理念とIBの概念学習を両立する
中学英語授業づくり：令和のRakugoスタイル創作を
通して

メタデータ	言語: ja 出版者: 東京学芸大学附属国際中等教育学校 公開日: 2024-04-25 キーワード (Ja): ETYP:教育実践 キーワード (En): 作成者: 杉村, 諒 メールアドレス: 所属: 東京学芸大学附属中等教育学校
URL	http://hdl.handle.net/2309/0002000379

現行学習指導要領の理念と IB の概念学習を両立する 中学英語授業づくり

—令和の Rakugo スタイル創作を通して—

Creating JHS English Lessons combining the Philosophy of the Course of Study with Conceptual Learning in the IB

—Through the Creation of New Style of Rakugo—

「外国語科」グループ
外国語科 杉村 諒

1章 はじめに

外国語科研究グループは、本校外国語科に所属する計 23 名のスタッフのうち、英語の授業を主に担当する 6 名の専任教諭によって構成されている。各教員の所属学年や授業担当学年・習熟度クラスはそれぞれ異なるが、2023 年度は各々の経験に基づく知見を寄せ合いながら、1 年生 Core クラス対象の単元を設計し、2023 年 11 月の授業研究会で公開授業及び協議会を実施した。

本校はいわゆる一条校（学校教育法第 1 条に規定される学校）、かつ国際バカロレア MYP・DP 認定校であるため、学習指導要領と国際バカロレアのカリキュラム双方を両立した教育課程を採っている。それはこのたびの 1 年生単元設計においても然りであり、特に両者で用いられる「概念」というキーワードを通して、両者が共通して訴える学びのスタイルの実現を目指した。本研究紀要においては、その実践の過程や成果を整理し、次年度以降の授業実践における一条校かつ IB 校としての概念的理解を促す単元設計のさらなる発展に役立てていくことを目指す。

2章 外国語科グループにおける「探究の問いが育む概念的理解」の解釈

外国語科研究グループが考える、中学校英語における「探究の問いが育む概念的理解」を促す授業とは、「『具体』から『抽象』へと移行する質問を段階的に投げかけることによって、スキル及びコンテンツ両側面において多様な場面で応用できる学びを与える授業」である。本章では、学習指導要領及び国際バカロレアのプログラムにおける「概念」や「探究の問い」の扱いを整理する。

1 節 現行学習指導要領における「概念的理解」

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語編で概念的（な）理解という表現が初出となるのは、改訂の経緯について述べている第 1 章の以下の箇所である。

このような時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構成することができるようにすることが求められている。（文部科学省, 2018, p.1）

そして、同第2章においては、外国語における「概念的な理解を実現し情報を再構成する」ということについて、以下のように詳細な説明がなされている。

また、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築することとは、多様な人々との対話の中で、目的や場面、状況等に応じて、既習のものも含めて習得した概念（知識）を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、課題を見いだして解決策を考えたり、身に付けた思考力を発揮させたりすることであり、「外国語で表現し伝え合う」ためには、適切な言語材料を活用し、思考・判断して情報を整理するとともに、自分の考えなどを形成、再構築することが重要であることを示している。（文部科学省, 2018, pp.10-11）

これらから、現行の学習指導要領における「概念的な理解」とは、学びの内容をその場に限られたものに留めるのではなく、様々な目的・場面・状況において活用されるより汎用性の高いものにするのだと解釈できる。

2節 国際バカロレアのプログラムにおける「概念的な理解」

国際バカロレア機構の定義づけにおいて、概念とは学習者に事実やトピックというレベルを超えた思考を促すような普遍的な原則や考え方だとされている（国際バカロレア機構, 2016, p.18）。そして、概念型の学習を通して学習者は、学習内容を幅広い領域において関連性をもつものに体系化し、新たな文脈において適用できるようになるとされている（国際バカロレア機構, 2016, p.16）。これは、先の2章1節で述べた学習指導要領における「概念的な理解」の解釈と大きく相反することはないと考える。

国際バカロレアのMYPにおいては、概念型の学習を実現するために「重要概念」と「関連概念」を用いている。重要概念とは各教科をまたいで用いられる、幅広く有力な考えを体系化する考え方であり、関連概念は特定の学習分野に根付いたものである（国際バカロレア機構, 2016, p.19）。国際バカロレアMYP課程における「言語の習得(Language Acquisition)」でPhase 1-2（今回の公開授業の対象生徒の習熟度に当たる）学習者向けに主に設定されている重要概念・関連概念は以下のとおりである。

表1 「言語の習得(Phase 1-2)」で主に設定される概念（国際バカロレア機構, 2020, pp.26-28）

重要概念	Communication	Connections	Creativity	Culture
関連概念	Audience	Context	Conventions	Form
	Function	Meaning	Message	Patterns
	Pronunciation	Purpose	Structure	Word choice

今回設計した単元においても、表1に掲載されている重要概念及び関連概念からいくつかを選び、単元を設計している（後述）。

3節 「概念的理解」のための「探究の問い」

国際バカロレアのプログラムに則っての単元づくりにおいて欠かせないのが「探究の問い」である。単元に設定された探究のテーマに沿った探求の問いを展開させていくことで、単元内の学びの目標を具体化することができる。MYP においては探究の問いを「事実的問い」（知識・事実に基づいた内容主導の問い）、「概念的問い」（事実を別の状況・文脈へと移行させるのを促す問い）、「議論的問い」（事実や概念を使用しての議論を促す問い）の三種類に分けている（国際バカロレア機構, 2016, p.74）。

MYP の「言語の習得」において考えられる 3 種類の問いとしては、例えば以下のようなものが挙げられる。

表 2 「言語の習得」における探究の問いの例（国際バカロレア機構, 2020, p.30 より一部抜粋）

事実的問い	概念的問い	議論的問い
What types of structures are used in communication?	Why do people have conversations?	Can we make meaning without language structures?

表 1 に掲載の関連概念のうち “structure” という語自体が問いの中で使用されており、表の列左から右に向けて発展・深化する様子を観てとることができる。単元内での学習活動を進めていく中で、適切なタイミングで段階的にこれら三種の問いを生徒に提示していく中で、生徒が探究のテーマを自然に考えていけるように促せることが理想であると筆者は考えており、学齢に応じて生徒にとってわかりやすい問いを追求している。

4節 本校外国語科における概念の捉え方

ここで、外国語（英語）という教科の特性を踏まえて、概念というものをさらに一步深く検討したい。本校外国語科では、概念には「スキルベースの概念」と「コンテンツベースの概念」の 2 種類があると解釈している。

スキルベースの概念とは、母語ではない言語を運用する技能それ自体を習得していくことに関わる概念である。国際バカロレアのプログラムで位置づけられる「言語の習得」においては比較的スキルベースの概念寄りのものが想定されているということが、表 1 で示されている主な 12 種の関連概念や表 2 に掲載されている探究の問いの例に表れていると考える。

これらは英語の技能獲得において必要不可欠な要素である一方で、これらだけでは各単元における内容を深めることが難しい。教科横断的な学びが求められ、また国際バカロレアのプログラムにおいても学際的な単元が設定される中で、外国語（英語）という教科においても、生徒が他教科との学びと関連づけて考えやすいような探究のテーマ、概念が存在している方が望ましい。

そこで私たち外国語科は、スキルベースの概念とは別にコンテンツベースの概念も考えた上で授業を構成している。言語能力の獲得とは別に、授業で取り扱う題材自体に着目し、その内容面での概念的理解を促すという考え方である。時に「言語の習得」以外の科目で用いられる重要概念・関連概念も参考にしながらの単元設計をし、スキルとコンテンツの両側面からいっそう深い概念的な学びが達成されるよう努めている。

3章 授業研究会での実践 1年生 Let's create a new style of Rakugo in English!

1節 本校前期課程における習熟度別クラス分けについて

本授業は、1年生 Core クラス生徒を対象にした授業である。

本校の前期（中学1年生～3年生）課程の英語の授業では、Advanced クラスと Core クラスの2つの習熟度別に分けた授業展開を行っている。Advanced クラスには一定期間の英語圏在住経験を持つ生徒やそれに準ずる英語習熟度であるとみなされる生徒が所属しており、それ以外の生徒は Core クラスで学んでいる。1年生 Core クラスは、日本国内の小学校を卒業して本校に入学しこの四月から本格的な英語学習を始めている生徒が多くを占めており、本校入学時の調査においても全国の他の中学1年生と比較しても英語力は同等であることが示されている。

普段の授業では週4時間の英語の授業を二人の専任教諭が週2時間ずつ受け持っており、一人が文部科学省の検定教科書を主に使用する単元を、もう一名が別教材を使用する単元を扱っている。今回実施するものは前者の授業であり、東京書籍“NEW Horizon English Course 1”を使用した単元である。また、ここでは詳細は述べないが、週4時間の英語の授業の他に、週2時間のネイティブ講師が受け持つ LE (Learning in English)の授業もあり、こちらも Advanced/Core の2つのクラスで実施している。

2節 研究課題との関連

今回、外国語科グループでは研究テーマを「新学習指導要領の理念と IB の概念学習を両立する中学英語授業づくり」と設定した。冒頭で述べたように、本校は一条校かつ国際バカロレア認定校として学習指導要領と国際バカロレア MYP・DP プログラムを両立した教育課程を展開してきている。平成29年告示の現行学習指導要領において「概念的な理解」が強調されたことも踏まえ、日頃の実践が学習指導要領と国際バカロレアのプログラムが示す「概念的な理解」をしっかりと生徒に促しているかをいっそう意識した。

この度公開授業を実施した授業クラスでは、前項での説明の通り検定教科書を使用している。検定教科書の単元で取り扱われている内容テーマをベースとして、国際バカロレアのプログラムの探究テーマ・探究の問いの設計の方法を組み合わせ、「スキルベースの概念」および「コンテンツベースの概念」学習を設計した。検定教科書という素材と国際バカロレアの学びづくりの手法を最大限効果的に活用することを目指した。

また、他の学年・習熟度クラスと比べて生徒の現段階での英語習熟度が最も低い1年生 Core クラスが対象であることにも留意したい。生徒が母語で学習を行っている他教科での学びと同等の思考・判断・表現を彼らに英語の授業で求めるのが困難なことに違いはない。しかし、そのような中でも、スキルベースの概念とコンテンツベースの概念ともに生徒の言語運用能力に適した形で取り扱うことができるのかを念頭におき、授業設計を行った。

3節 単元設計及び授業実践の概要

3-1 単元名・使用教材・対象生徒

単元名	Let's create a new style of Rakugo in English!
教科書単元	NEW HORIZON English Course 1（東京書籍） Unit 7 “Foreign Artists in Japan”

対象 1年生 Core クラス生徒 74 名（うち公開授業実施クラス生徒 19 名）

3-2 概念・探究テーマ・探究の問い

国際バカロレア MYP プログラムにおける授業設計の枠組みに従って設定した概念や探究テーマ、そして探究の問いは以下のとおりである。

表3 本単元の概念・探究テーマの設定

	スキルベース	コンテンツベース
グローバルな文脈	Personal and cultural expression	
重要概念	Communication	Change
関連概念	Audience, Purpose	Culture
グローバルな文脈	Personal and cultural expression	
探究テーマ	When communicating a story to others, it is necessary to choose the most effective method considering the purpose, scene, and/or situation.	
探究の問い	<p>【事実的問い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ What are the different ways of telling a story in the past and those in the present? ・ What points should we pay attention to in order to convey information to others more effectively? <p>【概念的問い】</p> <p>How can we choose the most effective method to communicate a story to others?</p> <p>【議論的問い】</p> <p>In order for rakugo to survive, should it change its form to suit the latest needs or trends, or should it retain its original form?</p>	

本校外国語科における2種類の概念の捉え方（スキルベースの概念とコンテンツベースの概念）は、この単元の設計においても生かされている。表3が示すように、本単元で取り扱う探究テーマ自体は一つであるが、これはスキルベースの概念とコンテンツベースの概念それぞれに展開できる。したがって、重要概念・関連概念はスキルベースのものとコンテンツベースのものそれぞれを用意している。また、3種類の分類がある探究の問いについては、【事実的問い】及び【概念的問い】はスキルベースの概念に、また【議論的問い】はコンテンツベースの概念に対応している。

表3に示す通り、本単元における探究テーマは「ストーリーを他者へ伝えるときには、その目的・場面・状況を考えた上で最も効果的な手法を選ぶ必要がある」ということである。この探究テーマに対しては、探究の問いのうち主に【事実的問い】と【概念的問い】を用意した。

なお、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編は、外国語科の目標を「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、（中略）コミュニケーションを図る資質・能力を次の通り育成することを目指す」としており、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方とは、「外国語によるコミュニケーションの中で、（中略）コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」と説明している

(文部科学省, 2018, p.10)。本單元におけるスキルベースの探究テーマは、学習指導要領における外国語科の目標に示される要素（特にキーワードとなる「目的・場面・状況」）を取り入れており、これも本研究における学習指導要領の理念と国際バカロレアの学習づくりの手法それぞれの要素を合わせる試みの一つと言える。

また、内容自体に基づき、「昔ながらの形（手法や技術）自体を変えずに残すことで、それが伝統となっていくこともある」というテーマも併せて考えていきたい。本單元で題材として扱う落語を例にとって説明する。数百年に渡る歴史がある落語に対しては、「座布団に座った一人の語り手が扇子をいろいろなものに見立てながら一人で演じる」という形のイメージが根付いているだろう。用いられている言語も当然日本語である。一方近年では、教科書でも紹介されているように英語で語る落語家もあり、日本国外を含むいっそう幅広い層に楽しまれるようになりつつある。また、本單元でのプロジェクトを通して生徒は、現代の様々な技術や手法を活用して落語の物語自体を表現する様々な方法があることに気づく。「時代を超えて同じ形で残り続けること」と、「時代に合わせて変化していくこと」、相反するが正誤ではないこの二択を【議論的問い】として設定した。

3-3 単元の活動計画（展開）

1年生 Core クラス授業は、クラス（1～4組）ごとに同内容が展開されている。本單元ではクラスによって総授業時数に差が見られたため、以下本研究紀要において紹介するものはすべて、授業研究会にて公開授業を行った2組のものを代表として取り上げることとする。

この單元では、全体を通しての活動を以下の2つのパートに分けて設計した。

1. 教科書ベースパート：検定教科書を主教材とし、教科書本文を活用しながらターゲット語彙・文法を学ぶ。外国語による聞くこと・読むこと・書くことの言語活動を通し、知識・技能の向上を目指す。
2. Project パート：独自教材を用意し、本単元の探究テーマについて、外国語による話すこと（やりとり・発表）の言語活動を通し、知識・技能に加えて思考力・判断力・表現力の向上を目指す。

教科書ベースパートで使用する NEW HORIZON English Course 1（東京書籍）Unit 7 “Foreign Artists in Japan”では、日本の伝統工芸や伝統文化にとりくむ外国人として陶芸家と落語家のことを登場人物が紹介する発表が本文 Story 1 の内容となっている。続く Story 2, Story 3 では登場人物数名が落語の公演に訪れ、その会話の中で落語とは何かや、400年以上にわたる歴史があることが説明される。後述の Project パートにおいても落語に注目した発展活動を実施するため、教科書パートでは落語に関する基本的知識を確実におさえることを目標とする。

また、本 Unit で新出となる文法項目は代名詞（me, you, him, her, them）及び疑問詞（which, whose）である。いずれも四月からの英語及び LE の授業内の活動を通して多くの生徒は用いてきた表現ではあるが、このタイミングで明示的に整理することで生徒の理解を深め、一層正確かつ効果的に使用できるようになることを目指す。

そして、Project パートで生徒は、既存の英語落語の物語および原稿をそのままに、それを古典的落語の形にとらわれない自由な形で伝達する「新型落語 in English」を創作するグループ発表活動を行う。テレビや YouTube・SNS のような動画メディア、ラジオや Podcast のような音声メディア、絵本の読み聞かせや紙芝居のような紙媒体使用など、現代には「物語を伝えるタイプの娯楽」の形態が多様化している。落語の物語にこれらの形をどう組み合わせっていくかグループで考えたり

他グループの新型落語を聞き手として楽しんだりする中で、生徒は「その目的・場面・状況に応じて、様々な手法から適したものを選ぶ必要がある」というコミュニケーションのスキルベースの探究テーマに向き合うことになる。また、長きにわたり基本的な形を大きく変えずに令和まで生き残ってきた落語の形をあえて他のものに置き換えるという試みの後、生徒はコンテンツベースの探究テーマから発展した議論的問い：「落語が生き残っていくためには、最新のニーズやトレンドに合うように形を変えていくべきか、それとも元の形を維持していくべきか」について考えていく。

本単元では、教科書ベースパートと Project パートを同時に進めていくこととなる。実際の単元の展開の概要を以下の表に示す。

表 4 本単元の授業活動の展開（授業 8 時＋評価課題）

	教科書ベースパート 主な活動	Project パート 主な活動
第 1 時	<ul style="list-style-type: none"> ■ [me, you, him, her, them] 導入 ■ 本文 Story 1 内容理解 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 伝統的なスタイルの落語の視聴 ■ 伝統的な落語のスタイルの分析
第 2 時		<ul style="list-style-type: none"> ■ 英語落語物語 内容理解
第 3 時		<ul style="list-style-type: none"> ■ 現代の物語伝達手法の分析 ■ 伝統的な落語のスタイルと現代の物語伝達手法の整理
第 4 時	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本文 Story 2 内容理解・演習 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新型落語創作 アイデアだし
第 5 時	<ul style="list-style-type: none"> ■ [whose, mine, yours. -'s] 導入 ■ 本文 Story 3 内容理解 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新型落語創作 授業者との打ち合わせ ■ 新型落語創作 最終設計確定
第 6 時		<ul style="list-style-type: none"> ■ 新型落語 発表会 ■ 発表会ふりかえり（コメントカード確認）
第 7 時 公開授業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本文 Story 3 演習 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各グループの新型落語 伝統的落語のスタイルとの比較のための活動 ■ ふりかえり記入（宿題）
第 8 時		<ul style="list-style-type: none"> ■ ふりかえり ■ 評価課題に向けた準備
評価課題	<p>[Reading] 本文に関する内容・表現を用いたテスト</p> <p>[Writing] 語彙確認テスト・文法確認テスト</p>	<p>[Speaking] 個別インタビューテスト (Which rakugo performance do you think is the best style? And why?)</p>

4節 授業実践（単元全体）報告

本節においても、3節3）と同様に、公開授業を実施した2組での実践成果のみ紹介する。

4-1 生徒が作成した創作落語パフォーマンス

各グループでそれぞれ新型落語制作を行った結果、以下の落語パフォーマンスが創作された。

表5 生徒が創作に際して記入したメモシートと創作した新型落語の概要

<table border="1"> <tr><td colspan="2">■ Title of your performance</td></tr> <tr><td colspan="2">Lunch time announcement in school</td></tr> <tr><td colspan="2">■ What is/are the purpose, scene, and/or situation of your performance?</td></tr> <tr><td colspan="2">■ Who can especially enjoy your rakugo? Who are the main targets?</td></tr> <tr><td colspan="2">scene... at the school</td></tr> <tr><td colspan="2">purpose... make chance for young people to experience Rakugo</td></tr> <tr><td colspan="2">who can enjoy?... students and teacher</td></tr> <tr><td>■ Features of a traditional style of rakugo</td><td>■ Modern methods of storytelling</td></tr> <tr><td>one person acts more than one role.</td><td>use announcement</td></tr> <tr><td></td><td>use BGM</td></tr> </table>	■ Title of your performance		Lunch time announcement in school		■ What is/are the purpose, scene, and/or situation of your performance?		■ Who can especially enjoy your rakugo? Who are the main targets?		scene... at the school		purpose... make chance for young people to experience Rakugo		who can enjoy?... students and teacher		■ Features of a traditional style of rakugo	■ Modern methods of storytelling	one person acts more than one role.	use announcement		use BGM	<p>Group 1 “School Announcement Rakugo”</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 中学校のお昼の放送で流すという設定 ■ 放送委員の生徒による一人二役の読み上げに加えて、効果音や合いの手などを追加 								
■ Title of your performance																													
Lunch time announcement in school																													
■ What is/are the purpose, scene, and/or situation of your performance?																													
■ Who can especially enjoy your rakugo? Who are the main targets?																													
scene... at the school																													
purpose... make chance for young people to experience Rakugo																													
who can enjoy?... students and teacher																													
■ Features of a traditional style of rakugo	■ Modern methods of storytelling																												
one person acts more than one role.	use announcement																												
	use BGM																												
<table border="1"> <tr><td colspan="2">■ Title of your performance</td></tr> <tr><td colspan="2">Zoo de show !!!</td></tr> <tr><td colspan="2">■ What is/are the purpose, scene, and/or situation of your performance?</td></tr> <tr><td colspan="2">■ Who can especially enjoy your rakugo? Who are the main targets?</td></tr> <tr><td colspan="2">Target is children and family.</td></tr> <tr><td colspan="2">Zoo's stage.</td></tr> <tr><td>■ Features of a traditional style of rakugo</td><td>■ Modern methods of storytelling</td></tr> <tr><td>Use cushion, fan, hand towel.</td><td>Use illustration.</td></tr> <tr><td>Talk one person only.</td><td>to like puppet show</td></tr> </table>	■ Title of your performance		Zoo de show !!!		■ What is/are the purpose, scene, and/or situation of your performance?		■ Who can especially enjoy your rakugo? Who are the main targets?		Target is children and family.		Zoo's stage.		■ Features of a traditional style of rakugo	■ Modern methods of storytelling	Use cushion, fan, hand towel.	Use illustration.	Talk one person only.	to like puppet show	<p>Group 2 “Puppet Show Rakugo at the Zoo”</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 動物園の野外ステージで行うという設定 ■ 物語の登場人物や動物のパペットを用意し、語り手の演じる物語の進行に応じてパペットを動かす 										
■ Title of your performance																													
Zoo de show !!!																													
■ What is/are the purpose, scene, and/or situation of your performance?																													
■ Who can especially enjoy your rakugo? Who are the main targets?																													
Target is children and family.																													
Zoo's stage.																													
■ Features of a traditional style of rakugo	■ Modern methods of storytelling																												
Use cushion, fan, hand towel.	Use illustration.																												
Talk one person only.	to like puppet show																												
<table border="1"> <tr><td colspan="2">■ Title of your performance</td></tr> <tr><td colspan="2">Performing Rakugo in a nursery.</td></tr> <tr><td colspan="2">■ What is/are the purpose, scene, and/or situation of your performance?</td></tr> <tr><td colspan="2">■ Who can especially enjoy your rakugo? Who are the main targets?</td></tr> <tr><td colspan="2">Little children (kindergarten) can especially enjoy our Rakugo.</td></tr> <tr><td colspan="2">The purpose/situation of our performance is, to tell little children what Rakugo is like.</td></tr> <tr><td>■ Features of a traditional style of rakugo</td><td>■ Modern methods of storytelling</td></tr> <tr><td>There is only one performer.</td><td>The performer uses pictures.</td></tr> <tr><td>Speaking at once.</td><td></td></tr> <tr><td>The performer uses gestures.</td><td></td></tr> </table>	■ Title of your performance		Performing Rakugo in a nursery.		■ What is/are the purpose, scene, and/or situation of your performance?		■ Who can especially enjoy your rakugo? Who are the main targets?		Little children (kindergarten) can especially enjoy our Rakugo.		The purpose/situation of our performance is, to tell little children what Rakugo is like.		■ Features of a traditional style of rakugo	■ Modern methods of storytelling	There is only one performer.	The performer uses pictures.	Speaking at once.		The performer uses gestures.		<p>Group 3 “Rakugo Using Picture Cards at a Nursery school”</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 保育園で読み聞かせの時間に行うという設定 ■ 紙芝居や絵本のように、そのシーンの状況を表すイラストを用意し、語り手の演じる物語の進行に応じて1枚ずつ提示 								
■ Title of your performance																													
Performing Rakugo in a nursery.																													
■ What is/are the purpose, scene, and/or situation of your performance?																													
■ Who can especially enjoy your rakugo? Who are the main targets?																													
Little children (kindergarten) can especially enjoy our Rakugo.																													
The purpose/situation of our performance is, to tell little children what Rakugo is like.																													
■ Features of a traditional style of rakugo	■ Modern methods of storytelling																												
There is only one performer.	The performer uses pictures.																												
Speaking at once.																													
The performer uses gestures.																													
<table border="1"> <tr><td colspan="2">■ Title of your performance</td></tr> <tr><td colspan="2">Rakugo on Air plane.</td></tr> <tr><td colspan="2">■ What is/are the purpose, scene, and/or situation of your performance?</td></tr> <tr><td colspan="2">■ Who can especially enjoy your rakugo? Who are the main targets?</td></tr> <tr><td colspan="2">office worker on a Air plane.</td></tr> <tr><td colspan="2">" on a bus</td></tr> <tr><td colspan="2">" on a train</td></tr> <tr><td>■ Features of a traditional style of rakugo</td><td>■ Modern methods of storytelling</td></tr> <tr><td>music</td><td>use the movie</td></tr> <tr><td>pictures (self)</td><td>pictures</td></tr> <tr><td></td><td>voice</td></tr> <tr><td></td><td>sounds</td></tr> <tr><td></td><td>music</td></tr> <tr><td></td><td>PC</td></tr> </table>	■ Title of your performance		Rakugo on Air plane.		■ What is/are the purpose, scene, and/or situation of your performance?		■ Who can especially enjoy your rakugo? Who are the main targets?		office worker on a Air plane.		" on a bus		" on a train		■ Features of a traditional style of rakugo	■ Modern methods of storytelling	music	use the movie	pictures (self)	pictures		voice		sounds		music		PC	<p>Group 4 “In-flight Video on an Airplane”</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 航空機の機内映像として乗客が視聴可能なエンターテインメント動画の1つという設定 ■ 語り手の演じる物語の進行に合わせて、登場人物などのイラストが動く簡単なアニメ調
■ Title of your performance																													
Rakugo on Air plane.																													
■ What is/are the purpose, scene, and/or situation of your performance?																													
■ Who can especially enjoy your rakugo? Who are the main targets?																													
office worker on a Air plane.																													
" on a bus																													
" on a train																													
■ Features of a traditional style of rakugo	■ Modern methods of storytelling																												
music	use the movie																												
pictures (self)	pictures																												
	voice																												
	sounds																												
	music																												
	PC																												
<table border="1"> <tr><td colspan="2">■ Title of your performance</td></tr> <tr><td colspan="2">Charity Rakugo performance</td></tr> <tr><td colspan="2">■ What is/are the purpose, scene, and/or situation of your performance?</td></tr> <tr><td colspan="2">■ Who can especially enjoy your rakugo? Who are the main targets?</td></tr> <tr><td colspan="2">The purpose is to be able to enjoy rakugo for all people.</td></tr> <tr><td colspan="2">Situation is charity rakugo performance. All people can enjoy it but main targets are blind people and deaf people.</td></tr> <tr><td>■ Features of a traditional style of rakugo</td><td>■ Modern methods of storytelling</td></tr> <tr><td>Only one performer acts</td><td>Use screen and show balloons</td></tr> <tr><td>different character. The performer uses gestures and facial expression a lot.</td><td>on it. Change the color of balloons as characters.</td></tr> <tr><td></td><td>Give paper of summary</td></tr> </table>	■ Title of your performance		Charity Rakugo performance		■ What is/are the purpose, scene, and/or situation of your performance?		■ Who can especially enjoy your rakugo? Who are the main targets?		The purpose is to be able to enjoy rakugo for all people.		Situation is charity rakugo performance. All people can enjoy it but main targets are blind people and deaf people.		■ Features of a traditional style of rakugo	■ Modern methods of storytelling	Only one performer acts	Use screen and show balloons	different character. The performer uses gestures and facial expression a lot.	on it. Change the color of balloons as characters.		Give paper of summary	<p>Group 5 “Rakugo at a Charity Event for Hearing-impaired People”</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 聴覚障害者のためのチャリティーイベントで演じるという設定 ■ 伝統的な落語のスタイルに準えて演じる演者の後ろで、字幕をスクリーンに投影 								
■ Title of your performance																													
Charity Rakugo performance																													
■ What is/are the purpose, scene, and/or situation of your performance?																													
■ Who can especially enjoy your rakugo? Who are the main targets?																													
The purpose is to be able to enjoy rakugo for all people.																													
Situation is charity rakugo performance. All people can enjoy it but main targets are blind people and deaf people.																													
■ Features of a traditional style of rakugo	■ Modern methods of storytelling																												
Only one performer acts	Use screen and show balloons																												
different character. The performer uses gestures and facial expression a lot.	on it. Change the color of balloons as characters.																												
	Give paper of summary																												

各グループ、ねらいと形がそれぞれ異なる創作落語パフォーマンスへと至った。

4-2 生徒が実施した創作落語並べ替え活動の結果

落語パフォーマンス創作ののち、議論的問い (In order for rakugo to survive, should it change its form to suit the latest needs or trends, or should it retain its original form?) へと繋げるために、実際にクラスで制作された5つの創作落語パフォーマンスを「伝統的な落語に近い順に並べる」という活動に取り組んだ。

合計9ペアの並べ替え活動の結果をまとめたものが以下の表である。

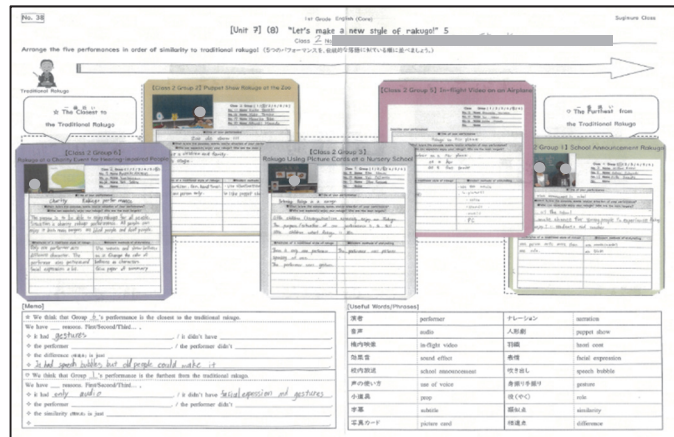


図1 生徒が並べ替え活動で作成したワークシート

表6 各ペアの生徒が並べ替え活動を通してまとめた結果

	伝統的な落語に最も近い		⇔	伝統的な落語から最も遠い	
ペア A	2	3	1	5	4
ペア B	5	2	3	4	1
ペア C	3	2	5	1	4
ペア D	1	3	2	5	4
ペア E	5	3	2	1	4
ペア F	3	2	5	1	4
ペア G	2	3	1	4	5
ペア H	5	3	2	1	4
ペア I	3	2	1	5	4

当該クラス授業においては特に、「伝統的な落語から最も遠い」創作落語として選ばれたものに着目した。多くのペアは Group 4 “In-flight Video on an Airplane”を選んでおり、挙げられた理由としては語り手の姿が一切現れないという特徴が述べられた。この点は、Group 1 “School Announcement Rakugo”を選択したペアも同様の点を指摘していた。なお、Group 5 “Rakugo at a Charity Event for Hearing-impaired People”を伝統的な落語から最も遠いものとして選択したペアは、落語のうまれたおおよそ 400 年前には存在しなかった IT 機器を使用していることをその理由として挙げていたが、2 番目に遠いものとして Group 4 “In-flight Video on an Airplane”を挙げた理由は先述のものと同じであった。

この並べ替え活動の直後、生徒には “What is rakugo?” という問いを投げかけている。これは、本単元の初回に生徒に尋ねた問いと全く同じ形のシンプルな問いである。しかし、新型落語創作および並べ替え活動を行うなかでそれぞれの創作落語の形式の特徴を比較分析したあとにこの問いを

投げかけられることで、生徒は「どのような特徴を持ってして、落語は落語という表現文化の形でありうるのか」ということを考えることとなった。

4-3 生徒の Reflection から見る、議論的問いに関する思考の課程

先の項で述べた並べ替え活動を行った後、生徒は“Reflection”（単元のふりかえり）を記入した。設定された4つの問いは以下の通りである。

表7 Reflection で生徒が回答した問い

質問1	What is the most important aspect of your rakugo? And what did you consider when you arrived at that point?	あなたたちのグループの落語の一番のこだわりはなんですか？ そして、何を意識してそのポイントに行きつきましたか？
質問2	What did you find particularly difficult in the creation of your new style of rakugo?	あなたが新型落語の制作の中で特に難しいと思った点はなんですか？
質問3	What did your pair use as criteria for the sorting of the five rakugo performances? (What is the difference between the ones close to the traditional rakugo and the ones far away?)	あなたたちのペアが5つの落語の並べ替えの基準にしたものはどのようなものですか？ (伝統的な落語に近いものと遠いものの違いはなんですか？)
質問4	In order for rakugo to survive, should it change its form to suit the latest needs or trends, or should it retain its original form? State your ideas.	落語が生き残っていくためには、最新のニーズや流行に合わせて形を変えるべきでしょうか、それとも本来の形をそのまま維持していくべきでしょうか？ あなたの意見を述べてください。

この4つの質問項目のうち、本項では議論的問い（In order for rakugo to survive, should it change its form to suit the latest needs or trends, or should it retain its original form?）を直接的に問うた質問4に対する生徒の回答を紹介したい。

表8 Reflection で生徒が質問4に対して回答した内容の一部（原文のまま抜粋）

形を変えるべき	<p>■私は、落語が生き残っていくためには形を変えるべきだと考える。なぜなら、(A)単元の始めに見た動画で小学生が笑っていて、小学生でも分かる内容、すなわち形が変わった落語が大事だと思ったからである。若い人たちに知ってもらうためには、形を変えて引き継いでいってもらえるような落語に変えるべきだと考える。</p> <p>■落語が生き残るためには、伝統も必要ではあるけれど現代の流行に合わせないと不可能だと思います。1人2役、propsなどは維持できると思うけれど、(C)音楽や場面は現代風に変えた方がより多くの人に見てもらえるし、人気が出るようになると思います。動画式にして、YouTubeで発信したり、効果音・イラストも入れるともっといいと思いました。</p>
---------	--

<p>本来の形を維持すべき</p>	<p>■最新のニーズやはばひろい世代に落語を伝えるための工夫を入れるのも良いですが、私は本来の形を維持していくべきだと思います。落語の人々のイメージは、古風で日本らしいというのが多いし、(A)情熱大陸の人は、本来のスタイルを残しながらでも、子供たちに笑ってもらえるような落語をしていたように、落語の良さは落語らしいスタイルで伝えるのが一番人々に楽しんでもらえると思ったからです。</p> <p>■本来の形をそのまま維持していくべきだと思う。落語には落語の良さがある。もし落語の良さがなければ 400 年以上もつづかないし、見に行く人もいなくなるし、時代にあって変化していく。でも、(B)落語は 400 年以上ものあいだ形を変えずにずっとつづいている。流行にあわせて変えていくのではなく今の落語の形をもっと世界に知ってもらいたいと思う。</p> <p>■かえないべきだと思います。理由としては、(C)自分が作った落語は落語じゃない感じがしました。今の落語がぼくは好きなので今の落語は変えなくてもいいのかなと感じました。落語はコンピューターなどは使わずにパフォーマンスの技術でできるものだと思うので(C)自分のグループなど自分の体では表現できていないので自分が思っている落語と少しずれ違うものがあるので変えなくていいと思います。</p> <p>■本来の形をそのまま維持すべきだと思う。なぜなら、最新のニーズや流行に合わせて形を変えてしまうと、落語という文化ではなく、落語に似た何かになってしまうと考えたからです。それに加えて、(D)今回の授業で落語には、適した特徴と時代をこえてまで楽しめる力を持っていると学んだからです。</p> <p>■(A)自分たちが最初に見た落語はテーマが現代風になっただけであり、それ以外の所に関してはその人の落語スキルの高さによるもので、落語の伝統的な部分を面白いと思ったはず。本来の落語を改造すると、それは最早 YouTube の動画の実写みたいなのになり、落語の面白みがなくなると思うので、テーマだけ現代にした方が良く思う。</p>
<p>どちらの形も必要</p>	<p>■本来の落語を残しつつ、色々な人がもっと落語を楽しめるように形を変えることも大切だと思うので、形は変えつつも本来を残すべきだと思います。元の落語が面白くてそれが 1 番落語らしいので残したいが、(C)目が見えない人、なども楽しめるようにあるていど形を変えた物を作ることも大切だと思います。</p> <p>■私は落語の本来の形を維持するのも、形を変えて新しい落語を作り出すのもどちらも必要だと思います。なぜなら、(B)落語は 400 年以上も歴史のある日本の伝統文化なので、その本来の形が失われてほしくないけれど、最新のニーズに合わせてよりよいものができるかもしれないからです。</p>

表8にみられるように、議論的問いに対しては、「形を変えるべき」・「本来の形を維持すべき」・「どちらの形も必要」の全ての視点に複数人から意見が述べられた。

表8で下線部(A)の箇所は、本単元の初回授業冒頭で視聴した映像に関するコメントである。ここでは、プロの落語家が小学校での講演の場で、内容自体を現代風のカジュアルなものに置き換えた落語物語を伝統的な落語のスタイルで演じたものである。小学生たちが大きな声で笑っているのを見て、「落語を変化させたことで現代の子どもたちに適合するものになった」という解釈をする生徒と、「その面白さの本質は昔から続く落語スタイルに起因するものだ」という考え方の双方が見られたのが興味深い。

また、使用している検定教科書の内容が見られる場面が下線部(B)である。検定教科書の該当Unitの内容から発展して組み立てている単元であるため、これらの記述のように検定教科書に書かれている内容が単元末のふりかえりにつながっている傾向がみられるのは好ましいことである。

そして、下線部(C)の記述では、生徒が実際に新型落語を創作したり他グループの落語をみたりするなかでの気づきが見られる。ターゲット層を聴覚障害者と明確に定めたうえで字幕という形を選択したグループの創作落語をみたことで目的・場面・状況に合わせた形の変化をさせていくことを肯定的にとらえる生徒や、落語になじみのない中学生という立場から現代風に変えていく落語スタイルに魅力を感じた生徒も居れば、実際に制作過程を通して自分たちの演じているパフォーマンスが落語とは呼べないように感じた生徒も居た。

これらの生徒の記述より、議論的問いである “In order for rakugo to survive, should it change its form to suit the latest needs or trends, or should it retain its original form?” に対して、生徒が単元での授業活動を通して実際に感じたことを踏まえて多角的に考えている姿が見られると言ってよいと筆者は考えている。

5節 授業研究会（公開授業・協議会）報告

5-1 公開授業報告

2023年11月23日(水)に行われた授業研究会では、本単元の第7時の授業を実施した。授業活動及びその展開の概要を以下に示す。

表9 第7時の展開

タスク名	■生徒の活動 ○補足説明
帯活動	
I am a teacher!	■指名された生徒1名は、「先生役」として教壇に立ち、生徒と英語でやりとりを行う。
I am a voice actor!	■簡単なアニメの動画の音声の特徴を真似てアフレコ活動を行う。 ○英語の音声の特徴(linking, elision等)に慣れ親しむことをねらいとする。
教科書ベースパート	
New Words and Phrases	■スライドで提示される新出語句を、Round 1: 授業者に続いて読み上げる。 Round 2/3: 日本語意味を見て英語表現を声に出す。
Listen and Answer	■教科書本文の音声を聞き、スライドで提示される Comprehension Quiz に答える。

Practice Reading Aloud	<p>■教科書本文の登場人物の会話を用い、ペアの相手と一緒に音読練習する。</p> <p>○Reading Sheet Level 1:本文まま/Level 2,3:本文穴埋め/Level 4:日本語訳。</p>
I am an actor!	<p>■教科書本文の登場人物の会話を用い、英語の本文を見ない状態でペアの相手と一緒に登場人物になりきっての演技を行う。</p> <p>○生徒は Reading Sheet の Level 4 のみ見ることが可能。</p> <p>○授業者がパフォーマンスを確認し、合格したペアはスタンプをもらって次のパートへ移動可。</p>
Project パート	
	<p>■Project これまでの活動のふりかえり</p>
	<p>■新型創作落語 Group 4 発表 (前時からの延期分)</p>
Today's Activity	<p><New Words and Phrases></p> <p>■スライドで提示される語句を授業者に続いて読み上げる。</p>
	<p><5つのパフォーマンスの並べ替え></p> <p>当該クラス生徒が実際に作成した新型創作落語(計5グループ分)を使用し、以下の活動を行う。</p> <p>■ペアで相談し、5つのパフォーマンスを「伝統的な落語と似ている順番」に並べる。また、その理由を説明するメモを作成する。</p> <p>■自分たちの作成した並べ替えシートを黒板に掲示する。</p> <p>○授業者は各シートを比較し、一部のグループに全体に向けて理由を説明してもらおう。</p>
Let's wrap up!	<p>○授業者はスライドで探究テーマおよび議論的な問いを生徒に投げかける。</p> <p>■生徒はふりかえりシートに自分の考えを整理して記入する。</p>

公開授業にはおよそ50名の参加があった。参加者が事後アンケートにて回答した内容から、検定教科書内容とIBの概念学習のフレームを限られた時数で両立させることの成果と難しさが浮き彫りとなった。ここで、事後アンケート回答内容から何か所か関連する文言をそのまま抜粋して紹介する。

- 教科書を用いた「スキルベース」のセクションと、そこから発展されたプロジェクトの「コンテンツベース」の2本立ての構成が印象深く、授業のテーマを体現された素晴らしい授業だった
- 先生方のIBに対する理解が、教科書を扱う中にも非常にうまくブレンドされていて素晴らしかった
- とてもテンポもバランス(探究・概念理解とスキル習得の)もよく、素晴らしい単元づくり・授業でした。
- △ 後半の活動がキモだったように思えるがそこに割く時間がやや少ないように思えた。
- △ 伝統的な落語と現代的な落語の特徴の部分でも図表を用いた概念説明を先生がしていたところから、あっさりしている印象を受けました。

2章4節で述べたように、本校外国語科の基本的な考え方に則り、本単元でも「スキル」と「コンテンツ」に分けて設計している。コンテンツについては検定教科書のユニットの内容を出発点としているものの、スキルを伸ばすための演習素材としての使用方法が主となっている。それに伴い、

本単元の授業設計でも毎時「教科書ベースパート」と「Project パート」に明確に分けて授業活動の流れを組んでいる。

この点について、公開授業の参加者からはバランスや進行のテンポを評価する声が挙がっている一方で、概念学習のメインとなる Project パートに割く時間が限られていること、そしてそれに伴い生徒が主体となって思考を深めるゆとりが不足し授業者が舵をとっている場面があることへの指摘が挙げられた。

授業コマ数には制約があるなかで、いかにスキルベースの学びを通しての英語運用能力獲得とコンテンツベースの探究学習による概念的理解獲得をバランスよく両立させるかが肝要であり継続課題であることが明らかになったといえよう。

5-2 公開授業報告

公開授業ののちに行われた協議会には 16 名が参加し、外国語科研究グループ教員による本校外国語科の説明及び公開授業の単元説明ののちに行った質疑応答の時間では、以下のような質問が挙げられた。

表 10 協議会で参加者から挙げた主な質問及び外国語科研究グループからの回答（要旨）

	参加者からの質問	研究グループからの回答
1.	概念的理解はどのように評価の中に組み込まれているのか。	主に、Reflection の記入の中で評価をしていることが多い。
2.	探究テーマは、コンテンツベースとスキルベースのどちらで設定しているのか。	下の学年では主にスキルベースになるが、学年が上がるにつれてコンテンツベースの探究テーマを設定しても他とのつながりを見出せるようになってきている。
3.	なぜ、概念的理解を教科書での英語学習に結び付ける必要があるのか。	外国語（英語）学習の主目的が言語のスキル習得であるため、概念学習と結びつけることは容易ではないと感じられるものである。しかし、コンテンツベースで考える学びの設計をすることで、学習者の興味関心を刺激し、学びの動機付けにすることができる。

質疑応答ののち、参加者と外国語科研究グループ教員が混在する少人数グループ 3 班に分かれての意見交換の時間をとった。本公開授業で使用した教科書単元を他の IB 重要概念を用いてどのような展開をさせられるか議論したり、参加者の各学校での実践を共有したりするなど、各班で有意義な時間を過ごした。

なお、事後アンケートの記述から明らかになったこととして、質疑応答の時間が限られているためふせんや LiveQ などをつかって効率や公平性を高めたり、非 IB 校の教員の方にとっても話しやすいような議題設定をしたりといった改善の余地があることが挙げられる。次年度以降の課題として検討する必要がある。

4章 結論

3章までの内容を整理し、授業研究会での公開授業を中心に進めてきた2023年度の実践の成果を以下のようにまとめて、本紀要の結びとしたい。

外国語科研究グループは、学習指導要領とIBのカリキュラム双方で用いられる「概念」というキーワードに着目して、両者の理想を両立した形の学びの実現を図った。

概念理解を促すために探究の問いを活用し、『具体』から『抽象』へと移行する質問を段階的に投げかけることによって、スキル及びコンテンツ両側面において多様な場面で応用できる学びを与える授業」を目指した。

公開授業を実施した1年生Coreクラス授業では、検定教科書の単元で取り扱われている内容にIBプログラムの探究テーマ・探究の問いの設計の方法を組み合わせた。「ストーリーを他者へ伝えるときには、その目的・場面・状況を考えた上で最も効果的な手法を選ぶ必要がある」という探究のテーマが設定されている。

検定教科書使用パート（主にスキル）では、言語材料の活用技能を獲得しながら、落語を英語で演じる外国人落語家の存在を知った。そして、Projectパート（主にコンテンツ）で生徒は、既存の英語落語の物語を自由な形で伝達する「新型落語 in English」を創作するグループ発表活動を行い、その創作落語を伝統的な落語と比較した。この活動を通し、生徒は「落語が生き残るためには最新のニーズに合わせて形を変えていくべきか、それとも元の形を維持するべきか」という議論的な問いに対して多角的な視野から向き合い、自らの力で探究テーマを考えることができたといえよう。

授業研究会参加者からの意見より、この単元設計スタイルの一つの課題が明らかになった。それは、検定教科書内容とIBの概念学習を限られた時数で両立させることの難しさだ。両者のバランスを評価する声もあるが、Projectパートに割く時間が限られており生徒が主体となって思考を深めるゆとりが不足することへの指摘もあった。単元全体での活動の取捨選択や個々の活動の実施方法の設計の工夫、シンプルな探究の問いの設定を次年度以降継続して模索していく必要があるだろうと、外国語科研究グループは考えている。

参考文献

- International Baccalaureate Organization (2020), Middle Years Programme Language acquisition guide (for use from September 2020/January 2021).
- 国際バカロレア機構 (2016), 「MYP: 原則から実践へ」. (英語版: International Baccalaureate Organization (2014), MYP: From principles into practice.)
- 文部科学省 (2018), 『中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 外国語編』, 開隆堂出版

Creating JHS English Lessons combining the Philosophy of the Course of Study with Conceptual Learning in the IB

– Through the Creation of New Style of Rakugo –

Abstract

Foreign Language Department Research Group focused on the keyword “Concept,” which is used both in the Course of Study and in the IB curriculum, to realize a style of learning that contains the ideals of both. To promote learners’ conceptual understanding, various questions should be posted in a step-by-step manner.

The research group embodied this theme in a first-year Core class. Although the division of the “Textbook-part” and “Project-part” was successful in promoting conceptual understanding, it became clear that it was difficult to combine the content of the textbook and IB’s conceptual learning in a limited amount of lessons.